

2008年
11月7日
毎日新聞
朝刊

人形に使う木、金属、粘土にあわせ 国立に週3日間営業ギャラリーオープン



展示された人形を操る吉川さん

国立市に毎週木、金、土曜日の3日間のみ営業する珍しいギャラリーが6日オープンした。小平市在住の人形造形作家、吉川潔さん(60)の「アトリエ・パネンカ」で、営業日は人形に使う木、金属、粘土に引っかけた。吉川さんは「気取らない

スペースなので、多くの人に来てもらいたい」と話している。

20代でチェコへ留学し、人形作りに目覚めた吉川さん。帰国後は劇団の舞台人形を手がける会社を起し、5年ほど前から本格的な創作活動に入った。ファンから「作品を常設

してほしい」との要望を受け、工房として使っていた民家を改装。ギャラリー兼アトリエとしてオープンした。作品のモチーフは

「妖精」。ヒノキを丹念に削り出して生まれる温かみと愛らしい表情が特徴だ。吉川さんは「人形は見る角度を変え、少し動かしてあげるだけで表情が変わる。それによって見る人の想像力がかきたえられる」と魅力を語る。

ギャラリーには常時40点ほどが展示される。今後は人形作りなどの教室も開くことも考えている。問い合わせはパネンカ(国立市中2の15の21、042・580・2678)。

【川崎桂吾】